

令和3（2021）年度 長岡大学シラバス

授業科目名 科目コード	家族社会学（Family Sociology） 132032-14000					担当教員	米 山 宗 久 （ヨネヤマ ムネヒサ）		
科目区分	教養科目	必修・ 選択区分	選択	単位 数	2	配当年次	2年次	開講期	後期
科目特性	知識定着・確認型 AL / 協同学修型 AL								

① 授業のねらい・概要									
<p>少子化が進行する中で子どもと家庭は深い関係であり、子ども家庭を福祉の視点で理解するとともに、ワーク・ライフ・バランスが直面する課題について適切な知見を得ることを目的とする。さらにその対策としての必要性を理解できるようになることを目標とする。</p> <p>少子高齢化の現状と子ども家庭の歩み、子どもにとって親や家族などを整理したうえで、子どもの権利、福祉制度、施設と専門職を取り上げて現状と課題を明らかにする。できるだけ発言の機会を設けるとともに、学修内容の理解を深めるために視聴覚教材も活用する。</p>									
② ディプロマ・ポリシーとの関連									
職業人として通用する能力 / 専門的知識・技能を活用する能力を養う。									
③ 授業の進め方・指示事項									
教科書に基づき、追加的事項を補足しながら授業を進める。小レポートや小テストを実施して、フィードバックを行う。そのために協同学修型 AL では、外部講師を招聘してディスカッションを行う。									
④ 関連科目・履修しておくべき科目									
⑤ 標準的な達成レベルの目安									
<p>(i) 子どもの権利保障を理解する。</p> <p>(ii) 子ども家庭福祉制度を理解する。</p> <p>(iii) 子ども家庭福祉の現状と課題を理解する。</p> <p>(iv) 子どもを取り巻く現状と課題を理解する。</p> <p>(v) 子ども家庭福祉の動向と展望を理解する。</p>									
⑥ テキスト（教科書）									
浦田雅夫（2020）「新・子ども家庭福祉」教育情報出版									
⑦ 参考図書・指定図書									
永田夏来・松木洋人（2017）「入門 家族社会学」新泉社									

⑧ 学習の到達目標とその評価の方法、フィードバックの方法								
具体的な学習到達目標	試験	小テスト	課題	レポート	発表・ 実技	授業への 参加・意欲	その他	合計
総合評価割合	50%	20%		20%		10%		100%
(i) 子どもの権利保障を理解する	10%	4%		4%		2%		20%
(ii) 子ども家庭福祉制度を理解する	10%	4%		4%		2%		20%
(iii) 子ども家庭福祉の現状と課題を理解する	10%	4%		4%		2%		20%
(iv) 子どもを取り巻く現状と課題を理解する	10%	4%		4%		2%		20%
(v) 子ども家庭福祉の動向と展望を理解する	10%	4%		4%		2%		20%
フィードバックの方法	小レポートはプレゼンテーションを行い、小テストは解説を行う。							

⑨ 担当教員からのメッセージ（昨年度授業アンケートを踏まえての気づき等）
<p>社会福祉主事任用資格の取得及び福祉住環境コーディネーターを目指すなど、公務員や福祉関係の職業を希望している学生は必ず受講してもらいたい。小レポートと小テストを合わせて、7回程度行う。外部講師招聘時は予習として課題を提示する。</p> <p>今回から子ども家庭に視点をあてる。</p>

⑩ 授業計画と学習課題				
回数	授業の内容	持参物	授業外の学習課題と時間（分）	
1	少子高齢化の現状と地域社会か	テキスト	少子化の要因と地域社会の変化を理解	30分
2	子ども家庭福祉のあゆみ	テキスト	子育て支援の歴史を理解	60分
3	子どもの権利保障	テキスト	権利条約・児童憲章を理解	60分
4	子ども家庭福祉の制度と法体系	テキスト	子どもに関する法律や専門機関を理解	60分
5	子ども家庭福祉に関わる施設	テキスト	児童福祉施設を理解	60分

6	子ども家庭福祉に関わる専門職	テキスト	相談援助や児童福祉専門職を理解	60分
7	母子保健と子育て支援サービス	テキスト	保健サービスと保育ニーズを理解	60分
8	小テスト	自筆ノート	1回～7回目授業のまとめ	60分
9	子どもの貧困と虐待	テキスト	貧困や虐待の現状や原因を理解	60分
10	ワークライフバランス	配布資料	仕事と家庭を理解	60分
11	障がいのある子どもと家庭への支援	テキスト	高齢社会の現状を理解	60分
12	不登校・引きこもりへの支援	テキスト	不登校・引きこもりの実態を理解	60分
13	スマホとゲーム依存症	テキスト	スマホとゲームとの付き合い方	60分
14	地域における連携・協働・ネットワーク	テキスト	子どもと家庭を支える地域ネットワークを理解	60分
15	小テスト	自筆ノート	9回～14回目授業のまとめ	60分

⑪ アクティブラーニングについて
知識定着・確認型 AL を採用する。小レポートや小テストを実施して、フィードバックを行う。そのために協同学修型 AL では、外部講師を招聘してディスカッションを行う。

※以下は該当者のみ記載する。

⑫ 実務経験のある教員による授業科目
実務経験の概要
<p>行政機関・社会福祉協議会・民間福祉施設では、生活保護・障害者福祉・高齢者福祉・ひとり親家庭福祉・児童福祉・介護保険制度や児童館に関わる行政業務、ボランティア支援・市民協働活動・福祉教育に関わる地域福祉・ソーシャルワーク業務、利用者の処遇・生活支援・相談業務に関わる利用者支援業務に従事してきた。また、行政計画である「地域福祉計画」「地域福祉活動計画」「介護保険計画」「障害者計画」の計画策定を行った。さらに「長岡市高齢者保健福祉推進会」「長岡市地域包括支援センター運営部会」「長岡市福祉有償運送運営協議会」「長岡市福祉施設指定管理者選定委員会」「長岡市男女共同参画審議会」「長岡市障害者施策推進協議会」「長岡市民生委員推薦会」などの委員を歴任している。</p>

実務経験と授業科目との関連性

行政機関・社会福祉協議会・民間福祉施設における経験から、家族内におけるDV、児童虐待、孤立化の現状、それに対する課題と対策を学生に伝えることができる。

たとえば、DVによる相談機関（児童相談所・女性相談所）の必要性を伝えることができる。さらに実体験として相談機関につなげた経緯・課題を伝えることができる。

また、子ども子育て支援計画においても、家族の現状と課題・問題点が明記されている。それらの知識を学生に伝えていくことによって、学生は現状と課題をまとめたり、課題解決策を導き出す能力を養うことができる。